

コミュニティ・スクール

井荻小学校 学校運営協議会

2023年度1号 2023年10月/発行/井荻小学校 学校運営協議会



学校運営協議会会長 東海林孝吉

校長 田中裕次

教員の力によって教育改革は教室の前の廊下で止まりもするし、教室の中で子供達の豊かな人間性を育みもすると言われます。一方、教員の仕事が増え続け残業時間や持ち帰り仕事の多さ、精神疾患を発症したり離職したりする人の増加等から教員の働き方改革が急務と報じられています。また職場環境や勤務実態の不安から教員志願者数が年々減少の傾向にあり、担任や講師が不足し配置されなかったりする例も課題となっています。

このような中において学校運営協議会では、毎年夏休みの後半に井荻小の良さや課題、学校や家庭・地域に期待すること等のテーマを決めて、先生方のほぼ全員の参加を得て懇談会を開催してきました。先生や保護者、地域の声を率直に出し合い縦と横の糸を紡ぎ、布を織るような気持ちで懇談会を継続しています。

今年のテーマは、「子供とのコミュニケーションの取り方、保護者とのコミュニケーションの取り方、学校でのコミュニケーションの取り方」でした。PTAの役員さんや近隣保育園や幼稚園の園長さんにも加わっていただきました。たいへん和やかに且つ内容のある充実した懇談会となりました。6つのグループでの話し合いの要旨を次の頁にまとめてありますので是非お読みください。

また今年は、懇談会に先がけて先生方に「やりがいや生きがい、経験した課題や悩み、今教員に求められていること」等についてのアンケート調査をお願いし回答いただきました。そこからは子供たちが助け合い支え合いながら楽しく学校生活を送れるように指導することにやりがいを感じていることが分かりました。さらに子供たちの達成感や喜びそして成長を見届けることに教員としての生きがいを見出しながら教職に情熱を注ぐ先生方の姿が読み取れました。そして「チーム井荻」として大変誇らしく、そして増々期待する気持ちが高まりました。

学校運営協議会の皆様と保護者、地域の皆様、そして教職員で懇談会を開くことができました。意思の疎通、考え方や価値観を共有するには、やはり目と目を合わせながら話し合うことが重要です。大変貴重な時間となりました。感謝申し上げます。

先日、井荻小の希望された親子33名で米どころ新潟県小千谷市へ稲刈り体験に行きました。雪深い日本海側なので涼を勝手に望んでいましたが、東京よりも暑い35℃。汗をかきながら黙々と稲刈りに取り組みました。ほんの数十分ですがものすごい労働です。手作業では田んぼの四隅しか刈ることができませんでした。今は、機械化が進っていますが、昔ながらの作業に人々のつながりや豊かな実りへの感謝の想いを感じることができました。この企画は新潟県中越地震で被災された年の翌年から続いて13年目の事業です。コロナで3回中止になっていますので10回目に私も参加することができました。水田のない杉並区にあって稲刈りを体験すること、カエルやバッタ、トンボを追いかけること、新米で食べたカレーライスの味は一生心に残っていることでしょう。6月のホテル観賞会や野鳥観察会など井荻小の子供たちは地域の皆様にたくさん支えられています。地域の方々や井荻っ子たちへの思い、学校の中を流れる川への願い、豊かな自然環境…様々な条件が重なり合って井荻小の教育活動があります。開校より地域の学校として学校、家庭、地域が三者一体となり健やかな井荻っ子の育成に努めています。学校運営に対しご助言、ご支援を学校運営協議会の皆様を中心にたくさんいただいております。学校運営協議会はどなたでも参観できます。井荻小の子供たちのための優しく、温かな話し合いにどうぞお待ちしております。

